

演出されたプーチン大統領のトルコ訪問

Halper and Associates

(2014年12月1日)

12月1日、ロシアのプーチン大統領がトルコを訪問した。APECで受けた極めて冷淡な歓迎に対するプーチン大統領の反応を如実に表すものとして、ワシントンはこの訪問を注視している。この訪問は「実務訪問」から「国賓訪問」に格上げされた。

この変更はロシア側のリクエストによるものであった。モスクワの意図は、APECサミットで顕在化したロシアに対する非難がさらに広がらないようにすることであった。

明らかに、モスクワは欧米社会で孤立していると見られることを憂慮しており、このような見方を打ち消す手段を講じている。プーチン大統領が「威風堂々」と迎えられることをクレムリンが要求するというのは少々見苦しい光景ではあるが、これはAPECで挫折したプーチン大統領が、好ましい賓客として歓迎されるという演出を望んでいることの現れであろう。

プーチン大統領の外交政策顧問であるユーリ・ウシャコフ大統領補佐官は、「国は外国の国家元首の訪問を3つあるいはそれ以上のカテゴリに分けて格付けするものだ」と注意深く説明して、プーチン大統領の訪問ステータスの変更を苦勞して強調した。「国賓訪問」が最高の格付けであり、「公式訪問」、「実務訪問」と続く。

これらの訪問の違いは主に儀式的なものである。国賓訪問では、ホスト国は多数の儀式を執

り行う必要がある。すなわち、ゲスト国元首に敬意を表して、ホスト国元首が昼食会もしくは晚餐会を主催したり、歓迎式典、国歌演奏、栄誉礼などを行う必要がある。プーチン大統領の訪問がカメラ撮影のためだけでないことを政治家アナリスト達に示すために、ウシャコフ氏はプーチン大統領には重要な計画があると語った。これにはトルコ共和国建国の父ムスタファ・ケマル・アタテュルクの霊廟であるアストゥカビル（アタテュルク廟）への訪問が含まれている。またウシャコフ氏は、「プーチン大統領がトルコのレジェップ・タイップ・エルドアン大統領と会談し、二国間の協力関係、天然ガス協定、国際関係（主にシリア危機）などが議論される予定である」ことも付け加える必要があると感じたようだ。

第5回ロシア・トルコ協力会議（High-Level Cooperation Council）では、貿易、経済、エネルギー部門におけるロシア・トルコ二国間協力に加えて国際問題が議題として取り上げられる予定である。

ロシアのPR専門家らは「ロシア・トルコ首脳会談を受けて、多くの二国間文書が署名されるはずだ」と付け加えた。金曜日、プーチン大統領はアナドル通信社の単独インタビューに応じて、「両国の相互貿易を2013年の327億ドルから、数年以内に1,000億ドルにまで拡大することでエルドアン大統領と合意した」と語った。